

私たちは文化財をとおして
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。



公益財団法人滋賀県文化財保護協会
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritages

季刊

みる・きく・ふれる 文化財

おうみ文化財通信

vol. 62

Information of Cultural Heritage in OHMI

2025 Winter

【調査速報】 蒲生郡衙関連の建物群を発見 - 近江八幡市御館前遺跡 -

【大学・高校連携事業】 <未来へつなぐ>

大学・高校とのパートナーシップづくり！

【普及啓発事業】 県内中学生の職場体験を受け入れています。

【学習支援】 「出前授業」 絶賛開催中！

～ホンモノの持つリアルを体感しながら学ぶ～

【お知らせ】 2025年1月～3月 催物案内

滋賀県立安土城考古博物館催物 / JR 大津京駅構内展示



しがぶんちゃん



● 御館前遺跡

【調査速報】 ^{がもうぐんが} 蒲生郡衙関連の建物群を発見

おうみ はちまんし みたちまえ

— 近江八幡市御館前遺跡 —



奈良時代の掘立柱建物群（南方から／調査地北側には古代東山道が東西に走る）

（写真提供：滋賀県）

御館前遺跡は近江八幡市千僧供町に所在し、県道整備工事に伴って令和4年度から発掘調査を実施しています。

周辺の遺跡も含め、これまでの発掘調査で、飛鳥時代から平安時代にかけての正方位を主軸とする掘立柱建物が多数検出され、木簡や墨書土器などが出土していることから、古代の郡役所である蒲生郡衙があったと推定されています。

今回の調査では、これまでの調査同様に、大型の柱穴で構成される、正方位を主軸とする掘立柱建物が多数検出され、^{くうかんち}空閑地を囲むように配置されていました。

これらの掘立柱建物群はその特徴と配置から、郡衙に関連する施設と考えられます。一方で、掘立柱建物群が推定東山道沿いに位置することから、東山道を行き交う物流に関する施設の可能性も考えられます。

掘立柱建物と同時期の周辺遺構からは、墨書のある土器や、転用硯、コップ形須恵器と呼ばれる土器が出土しています。コップ形須恵器は平城宮などで出土例があるほか、近隣地域では竜王町ブタイ遺跡で出土しています。墨書土器や転用硯の存在は、ここが公的施設であったことをうかがわせます。



墨書土器（「土」または「土」と書かれている）



コップ形須恵器

このほか、出土する須恵器には、焼成不良のものや焼けひずんだものが含まれていました。こうした不良品は広く流通するものではなく、窯跡の近くや須恵器生産を管理する公的施設などから出土することが一般的です。御館前遺跡の不良品土器も、そうした生産施設やその管理施設といった公的施設に伴うものと推定されます。



焼成不良の須恵器（左）と焼けひずんだ須恵器（右）



調査地から鏡山古窯址群をのぞむ

御館前遺跡の西方約3.5kmには、県下最大級の須恵器生産地である鏡山古窯址群（竜王町・野洲市）があります。鏡山山麓のブタイ遺跡では、焼成不良や焼けひずんだ不良品が出土した大溝や奈良時代の掘立柱建物群が検出されていることから、郡衙が管理する須恵器生産の一次選別場と考えられています。

郡衙域と推定される御館前遺跡から不良品の須恵器が出土したことにより、<生産場→生産場での選別→郡衙での選別→郡内での分配>という、須恵器の生産と流通の姿が明らかになったのです。



詳細資料→



～発掘調査現場スタッフの声～

「入学して初めての夏休み、人生初!の発掘調査に参加しました。初めて御館前遺跡で須恵器を取り上げた感動は一生忘れることはないと思います。前々から興味津々だったこともあり、心躍る瞬間でした。また、遺構の掘削や記録図面の作成など、貴重な経験を積むことができた喜びとともに、よりいっそうの経験と知識の蓄積が必要と痛感しました。今後は大学でさらに勉強に励むつもりです。現場でご指導いただいた関係スタッフの皆さま、本当にありがとうございました。」

（滋賀県立大学1年生 富岡聖羽さん）

→その後富岡さんは、当協会安土分室（県立安土城考古博物館内）で2日間にわたって開催された「あの遺跡は今!Part31」で、御館前遺跡を含む複数遺跡の遺構・遺物展示解説にも挑戦しました。

◇当協会では、作業スタッフとして大学生・大学院生が参加しています。



展示解説のようす（写真右端が富岡さん）

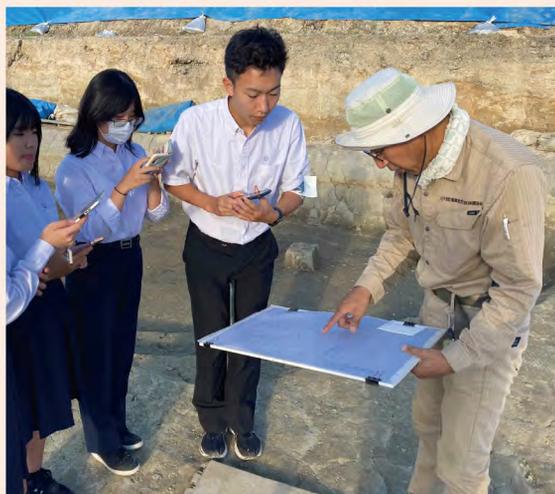


滋賀県文化財保護協会が目指すのは、文化財を通じた豊かな滋賀づくりへの貢献です。そのために必要なものは、何をおいても「人」！人こそが、文化財のもつ価値や魅力を掘り下げ、それらを活かして地域を元気にしてくれるからです。文化財と地域を未来へつないでいける人材育成は、行政機関や調査機関、そしてなにより地域にとって欠くことのできない大切な事業だと考えています。

そんな考えにもとづき、滋賀県立大学や京都橘大学をはじめとする様々な大学とパートナーシップづくりを当協会では進めています。また今年度からは、私たちの本部事務所に隣接する滋賀県立東大津高校との交流も深め、新聞部の生徒さんたちの取材受け入れなども進めました。



滋賀県立大学オープンキャンパスでの当協会調査員による解説のようす



東大津高校新聞部の発掘調査現場取材のようす



【パートナーシップを組んだ連携事業例】

- ・オープンキャンパスへの協力（県立大学と／写真上）
- ・高校新聞部の取材受け入れ（東大津高校と／写真左）
- ・先生方や生徒さんたちの研修受け入れ（県立大学と）
- ・専攻生のインターンシップ受け入れ（京都橘大学と）
- ・文化財保存活用地域計画学習会の共同企画（京都橘大学と）

県内中学生の職場体験を受け入れています。



当協会では県内中学生の職場体験を受け入れており、毎年複数の中学校からの参加があります。今年5月には、近江八幡市立安土中学 2 年生の 6 名が、滋賀県立安土城考古博物館内の安土分室で職場体験に参加しました。

安土分室では、県内の発掘調査で見つかった出土資料等の整理調査を行っています。今回は作業工程のうち「遺物実測」「拓本」「製図」のほか、現地での「発掘調査」の体験です。

全員がホンモノの出土品に触れるのは初めて。慣れない作業に緊張しつつも作業を楽しみながら、真剣に取り組んでくれていました。

この職場体験をとおして、参加した中学生の皆さんが、働くことの意味を学び、専門性のある仕事の存在を知ってもらうことができたと感じています。



◆遺物実測：出土遺物の形や大きさ等を測って図を描きます。初めて見る道具を駆使して丁寧に描き上げてくれました。



◆製図：発掘調査報告書に掲載するために、手書きの遺構・遺物実測図をコンピュータ上で製図します。曲線が難しかったようです。



◆拓本：墨を使って専用の和紙に細かい模様などを写し取ります。すぐにコツをつかんで、きれいに仕上げられました。



◆発掘調査：暑い中での作業に苦戦しながらも、土器が出土すると喜びの声が！

当協会では、県内での発掘調査および、調査記録や出土遺物の整理調査を行っており、調査成果の地域還元の一環として、職場体験を受け入れています。

【学習支援】

「出前授業」絶賛開催中！～ホンモノの持つリアルを体感しながら学ぶ！～

滋賀県埋蔵文化財センターでは、小・中・高等学校等の教育機関や各種団体を対象に、「出前授業」を行っています。文化財専門職員が屋内外で、県内の遺跡を紹介・案内したり、学校に土器など当センター所蔵の実物の出土品を携えて、文化財を間近にしながらお話しするなど、実物を用いて歴史が体感できる場を創出しています。

昨年度は5校、2024年度は小学校3校と中学校1校から依頼がありました（*2024年10月末現在）。ぜひご活用ください。



大津市立瀬田東小学校での出前授業のようす



▶お問い合わせ・申込先
電話 077-548-9681
FAX 077-548-9682
メール shigamaibun-center@guitar.ocn.ne.jp



当協会は、県からの委託により、県内で発掘された遺物や調査記録の整理・保管および文化財に関する普及啓発を行う「滋賀県埋蔵文化財センター」の管理運営を行っており、この業務のひとつとして収蔵品を活用した出前授業を行っています。

【お知らせ】2025年1月～3月 催物案内

安土城考古博物館→



まめのぶくん



←埋蔵文化財センター

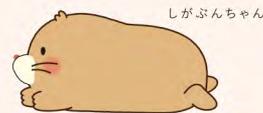
◆催物案内1 *問合せ先:0748-46-2424(滋賀県立安土城考古博物館) *入館は16:30まで。

日程	時間	種類	イベント	定員	予約	参加費	会場
12/4(水)～2/4(火)	9:00～17:00	展示	特別陳列Ⅲ 近江の遺跡発掘調査③ 「中世のお金-虫生館遺跡出土事例から-」	無	不要	入館料	当館 企画展示室入口
1/11(土)	13:30～15:00	講座	連続講座Ⅲ信長家臣たちの苦闘②「明智光秀の丹波攻め」 講師：太田浩司氏(淡海歴史文化研究所所長)	120名	不要	500円	当館 セミナールーム
2/5(水)～3/18(火)	9:00～17:00	展示	特別陳列Ⅳ 「信長とその息子たち」	無	不要	入館料	当館 望楼下
2/8(土)	13:30～15:00	講座	連続講座Ⅲ信長家臣たちの苦闘③「信長家臣団の破綻～山崎合戦から賤ヶ岳合戦への道～」 講師：太田浩司氏(淡海歴史文化研究所所長)	120名	不要	500円	当館 セミナールーム

*3月中旬：滋賀県立安土城考古博物館常設展示室リニューアルオープン！

◆催物案内2 *問合せ先:077-548-9681(滋賀県埋蔵文化財センター)

どきっち



しがぶんちゃん

「史跡でみる縄文時代から古代の遺跡－国史跡穴太廃寺跡－」～JR大津駅構内展示～

JR大津駅改札内コンコース展示場では、「史跡でみる縄文時代から古代の遺跡」をテーマに、国や県に指定されている遺跡を紹介しています。今回は大津市にある「国史跡穴太廃寺跡」について、写真パネルや出土遺物を展示し、解説します。

穴太廃寺は近江大津宮に関連する遺跡として知られています。663年に白村江の戦いで敗北し、諸外国との関係に緊張感が高まるなか、危機を回避する打開策として、中大兄皇子は都を飛鳥から近江大津宮（667～672年）に移しました。これとともに要所に寺院を配置しており、穴太廃寺もその寺院の一つと考えられています。

穴太廃寺跡は、2つの時期の伽藍配置が確認されています。方位を変えて再建された伽藍は、西に金堂、東に塔、北に講堂といった奈良の法起寺と同じ配置で、近江大津宮の時代に相当します。これらの伽藍を中心に、穴太廃寺跡について詳しく紹介します。

ぜひお立ち寄りください。



【開催日】2025年2月1日(土)～5月30日(金)

【開催時間】6:00頃～23:30頃(電車運行時間帯)

【入場料】JRの乗車券または入場券が必要

【会場】JR大津駅改札内コンコース展示場

(大津市皇子が丘2丁目8-1)



JR大津駅展示場の様子